

ちば里山新聞

(第42号)

編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895

題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

竹炭の製造・販売の事業化に向けて

11月12日 竹炭シンポジウム in 千葉

竹炭に関するシンポジウムが、平成26年11月12日、ちば里山センター事務所のある千葉県緑化推進委員会の会議室と広場で行われました。千葉県でも大きな問題になっている「竹林の整備」を継続的・発展的に推進するため、竹林を資源化する有効な方法である「竹炭」について、その製造・販売などの事業化を具体化しようとするもので、折からちば里山センターで開講している「ちば里山カレッジ」のカリキュラムとして組み込まれたもの。主催は、ちば里山センター、竹もりの里、蔵前バイオエネルギー技術サポートネットワーク(略称:K-BETS)の各NPO法人。



“土壌改良剤”として有効 シンポジウムは、午後1時に始まり、炭化器による実演に加え、いくつかの講演が行われました。実演は、直径1.5メートルのステンレス製の無煙炭化器で行われ、およそ3時間後に放水・消火が行われ、炭化した製品(竹炭)を確認しました(写真④及び⑤)。同時に、ガルバニウム鋼板製の組み立て式大型製品も紹介されました(写真⑥)。

主催者からは、炭化器は容器の材質と構造に独特の工夫があること、また竹炭の用途としては土壌改良剤として有効であることなどの説明があり、参加者との間で事業化に向けての可能性を目指した活発な討議が行われました。

“推進モニター”の募集も シンポジウムへの参加者は、ちば里山カレッジ受講生を含む数十名。併せてこのプロジェクトの推進モニターが募集され、12名(団体)が応募して実用化に向けて活動することになりました。

講演のタイトルと講師は以下の通り。

◆「竹林拡大の現状と竹林の管理」(千葉県農林総合研究センター・福島成樹研究員)



◆「長生郡における竹林整備活動の状況」「薪炭化器による竹炭製造コスト低減」(竹もりの里・鹿嶋理事長)

◆「竹林整備の継続的な事業化のために」(K-BETS・渡辺常務理事)

◆「薪炭による土壌改良剤としての適用効果」(K-BETS・篠崎理事)



軌道に乗る「ちば里山カレッジ」

二回目の卒業式と新コースのスタート

平成 25 年度から始まった「ちば里山カレッジ」は 2 年目を迎え、計画に沿って順調な運営がなされています。ボランティア養成コースは 70 名が卒業し、その多くは各地の現場で里山活動を実践しています。そして、ことしから併行して「次世代リーダー養成コース」が開講しました。期初計画によると、3 年後には 150 名を超える卒業生が誕生し、各地域で活躍することが期待されます。

北総地区に巣立つ“里山人” 里山ボランティア養成コース卒業式 11月2日(土)

ちば里山カレッジのボランティア養成コースの卒業式が、11月29日、柏市にある「さわやか県民プラザ」で行われました。式は、10時30分から始まり、金親理事長式辞のあと、修了者一人ひとりに修了証書が授与されました。北部林業事務所の並木所長が来賓を



代表して祝辞を述べ、卒業生を代表して宮原功さん(柏市)が謝辞を述べました。(写真⑤)

卒業式終了後の自主研修・懇談会では、鈴木副理事長のコーディネートのもと、全体を通じてのまとめと意見交換や卒業生の抱負の発表が行われ、講座を締めくくりました。

昨年に続き 2 回目となる今回の講座は、主として北総地区の里山ボランティア希望者を対象にしたもので、北総地区の活動の一層の活性化・進展が期待されます。

公開講座でスタート 次世代リーダー養成コース入学式 12月6日

ちば里山カレッジのリーダー養成コースの入学式が、12月6日千葉市教育会館で行われました。

式では金親理事長の式辞のあと高梨森林政策室長が来賓を代表して祝辞を述べました。そして、受講生の氏名が読みあげられ、小西担当理事からカリキュラムの概要等について説明があり式を終了しました。

第一日目の講座は受講生以外の聴講も可能な「公開講座」とし規模を拡大して行われました。公開講座では2つの基調講演が行われ、いずれも豊富な事例に基づいた示唆に富んだ内容で参加者の関心を集めました。講演のタイトルと講演者は以下の通り。

<講演 1>「持続可能な社会に向けた SATOYAMA 活動を考える」:独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園・大石康



彦教育的資源研究グループ長

<講演 2>「新たな公共の担い手としての市民活動」:
NPO 法人よこはま里山研究所・吉武美保子主任研究員

写真は式後の記念撮影

リレー・エッセイ

里山とわたし



ロープワークによる 伐木作業のすすめ

房総森輪会 岡部正史(市原市)

“掛かり木”は高密度林では当たり前 ことしも伐木作業での死亡事故が多発しているようですが、特に掛かり木の処理中に起きた事故が目立って多く感じられます。常識的にやってはならない“元玉切り”をしていることが多いようです。なぜ、他の処理方法を取らないのかと、疑問に思うのですが…原因は伐採補助具を持たずに伐木作業をしている現状にあると思われます。

チェーンソーのほか、伐採補助具といえばクサビとクサビを打ち込むハンマー程度でそのほかの道具を持たないで作業をしていることが多いようです。せめてフェリングレバー程度は準備するべきだと思います。密度の高い森林での伐木は掛かり木が当たり前に起こりますので、十分予知される範囲の危険として想定できるはずです。

ロープで牽引し伐倒方向を誘導 私たち房総森輪会では、掛かり木の処理にフェリングレバーよりロープワークを活用しています。すなわち、掛かり木は当たり前に起こるので、伐木の準備段階でロープを掛けてから伐木作業に入ることを標準作業にしています。なぜならば、作業は高密度のヒノキ林での作業が多く、フェリングレバーでも落とせないことがほとんどだからです。ロープワークを使った伐木なら伐倒方向を正確に誘導出来ますし、掛かり木になった場合でも、ロープをウインチで巻きそのまま掛かり木を引き倒すこともできます。結果、安全で計画通りに作業が進められます。掛かり木になってからロープを掛けに行くこと自体が危険なので、事前にロープを掛けてからの作業を標準化した理由です。

それから、ロープを掛けに木に登ることもしていません。それでは、どうやってロープを掛けるかですが、私たちの場合は、ツリークライミングで使用するスローバッグとスローラインを使ってできるだけ高い位置の枝にロープを掛けます。次に、伐倒方向の別の木にロープをアンカリングして、引き手になるロープは別の木に滑車等を取り付け、引く方向を安全な方向に変えて準備しておきます。——と説明しても解りにくいと思いますが…この方法で過去に伐木の失敗や事故が一切起きていません。

チェーンソー操作の訓練も重要 ただし、いかにロープを掛けて伐倒方向を誘導しても、伐倒方向はチェーンソーによる切り口の精度が大きく影響しますので安心はできません。チェーンソーワークのトレーニングも当然必須になります。

房総森輪会では、見学・研修は常に歓迎していますので、興味のある方は遠慮なくいらしてください。

写真⑤=伐倒後の切り口の確認・点検。左手前が筆者

写真⑥⑦=ロープかけ作業とロープを使ったの伐倒作業



“見つけよう 未来を変えるエコの知恵”

エコプロダクトに出展

12月11日～13日

小さな森の大きな可能性 日本最大級とされる環境展示会「エコプロダクト 2014」に、ちば里山センターがことしも参画しました。当センターは、全体テーマ「見つけよう未来を変えるエコの知恵」を踏まえ、「小さな森を大きな森に育てよう」をテーマに、ガラスや陶器に活けた小さな苗木(“ミニフォレスト”)を出展しました。



写真④=来訪者で賑わった当センターブース

写真⑤=カエデやコナラの“ミニフォレスト”

会員の認証や表彰続く・・・ちば里山センターの会員の活動が評価されています。

会員名	認証・表彰	内容
安馬谷里山研究会	「南房総市セラピーの基地」に認証	南房総市はかねて安馬谷ルートを含む7つのセラピーロードを申請していましたが、このほど「NPO 法人森林セラピーソサイエティ」からその認証を受けたものです。(千葉県では初めての認証)
NPO 法人 ちば環境情報センター	「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に選定	谷津田の休耕田(千葉市下大和田)を中心に、ゴミ拾いや耕作を行い、コメ作りを進めてきたこと、林を手入れし、自然観察を行うなどの多年にわたる保全活動を継続してきたことが、「一般社団法人関東地域づくり協会」及び「公益財団法人日本生態系協会」により評価されました。
緑の輪・協議会	「アステラス賞」(第1回)を受賞	土地改良区が取得した産業廃棄物処理計画の跡地(千葉市緑区)を緑の森に還元しようと、植樹や手入れ、生態系や生物の増加状況の調査などの取り組みを続けてきたことが評価されました。 この賞は、「いきものにぎわい市民活動大賞」の一環として、「アステラス製薬」が新たに創設したものです。

~~~~~編集後記~~~~~

●新年のお喜びを申し上げます。衆院の選挙も終わり、国会も内閣も新しい陣容でスタートすることとなりましたが、里山センターではことし6月に役員の改選期を迎えます。会員の皆様におかれては、役員として本法人への運営に積極的な参画・支援をお願いできないでしょうか。里山を愛する意欲と情熱に期待するところです。自薦他薦をお待ちしています。(H.K)

●森林作業中の事故の多発を受けて、林野庁からも通達が出され注意が喚起されています。楽しい里山活動も、安全が確保されてこそです。安全作業の基本をしっかりと踏まえ、少しの危険も排除して活動していきたいものです。「ことしもゼロ災で行こう！よし！」(K.T)

入会申し込み、問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896

E-mail info@chiba-satoyama.net HP <http://www.chiba-satoyama.net>